

関西女子学生バスケットボール連盟
2023年度 第8回 理事会 議事録

日時：2024年3月30日（土）18時30分～

開催形態：zoom

出席者

[理事]

野老稔、荒木初広、坂井和明、西川幸穂、古本ルミ、山中博史、山本孝、石橋將広、白井徹、房本浩希、畑岸邦枝、玉井里英、瀧本真弓、鈴木慶太、今西正泰、中原英博、村田尚美

[学生委員]足立奈月、中間莉子、鶴田彩海、平本愛純、松本知夏、高村海槻、大久保結子、秋岡茉菜、上野なつな、深井愛子、藤浪真子、志原ひな、川上愛乃、高野美佐子、小林愛梨、高田鈴、近藤ほなみ

書記：小林愛梨

古本副理事長・総務部長から、第8回理事会の開会にあたり、出席者17名、委任状出席者10名で、出席が理事の過半数に達しており、理事会が成立していることが報告された。

期初の申し合わせに従い、野老会長を議長として、第8回理事会を開会した。

I. 審議事項

1. 2025年リーグ戦について

2023年度と同様、1部は10チームで1巡したのちに上下5チームずつに分けて2次リーグを行うという提案があった。1部の監督会議を行った結果、1部を8チームとしたうえで2巡とする案について4校が賛同したが、種々議論のうえ、2023年度と同様の方式にて進めることで了承を得ている。監督会議を通じて、①関西の女子学生の登録数が減っており、登録数増の課題と関連づけて検討する必要があること、②実施方法が短期間で変わることは望ましくないため、10チーム制を変えるのであれば慎重な審議を経て決定すること、が確認された。また監督会議では、2020年はコロナによりリーグ戦が実施できず、1部はトーナメント形式としたうえで、前年順位でインカレに推薦を行い、結果、関西だけが予選をしないまま推薦したこと、2021年は1部1巡で実施することとしたが入れ替え戦をやるとコロナを隠して出場するなどが発

生する可能性がありリスクマネジメントの視点から入れ替え戦はせず2チームを上げる(10チームとする)ということになったこと、などの過去の経過を踏まえる必要があることなどが確認された。またトップダウン的決定ではなく、合意形成の手続きを取ることが大切という意見が出された。

さらに、学生の視点の重要性も指摘され、学生バスケットボールであるため、1部リーグに所属している全学生に個人賞表彰の機会があることが大切である、同一相手と同一の数、全チームが試合をする対戦方式の方が学生にとって最後の最後まで個人賞の機会があるというモチベーションにつながる、最終日に全チーム試合があり、同一会場に集まって表彰をすることは重要という意見が出された。

以上の意見交換を了承したうえで、2025シーズンは現行の10チーム制、上下5チームによる2次リーグで実施することを確認した。また2026シーズン以降のことについて、次年度も審議する必要があるという指摘もあり、競技部・強化部での検討を踏まえ理事会でも検討を行うこととした。

審議事項2. 2024年度事業計画と予算案について

古本副理事長より、一般社団法人として、定款に沿って事業をということで、定款第4条にしたがい、別紙事業計画が報告された。大会のみではなく、普及事業や選手の派遣、審判の育成なども含まれる。具体的な事業については、個別に常任理事会及び理事会で確認する。

今西財務部長より、予算について、事業計画にもとづき、一般予算と各大会予算を組んでいることが説明された。収入の合計として、大会有料入場、Tシャツ販売などを含め、19,588,620円を2024年の収入の部として計上している。支出としては、大会に関わる費用。審判費用、会場費、交通費、運搬費用などで、合計が19,163,000円となり、当期収支は予算として425,020円のプラスを見込んでいる。合わせて各大会の特徴についても、資料に基づき説明された。事業計画および予算は、いずれも特に異議なく承認された。

II. 報告事項

報告事項1 全関西大学女子バスケットボール新人戦について 資料4

石橋競技部長より京都学生日程との調整を行い、5月に新人戦を行うめどができたこと、全関西が終わった翌週の土曜日から3週にわたって6日間行うこと、参加資格について全国大会に出場するにはC級コーチの資格を持っている必要があり資格を持っていないチームもこの大会に出場できるが全国大会に出場することが出来ないことを明記すること、で準備を進めることが報告された。

足立学生委員長より、資料を3月31日に配信し、4月11日エントリー締切り、13

日抽選日、30日にプログラム制作終了で、5月8日にパンフレット納品、代表者会議を行う予定であること、勝ち上がるチームを予想しながら、会場を探していることが報告された。

報告事項2 全関西大学女子バスケットボール選手権大会の準備状況について

3月29日プログラムの作成が終了し、納品が4月4日を予定しておりこのタイミングで理事や企業に送る予定である。また、4月6日に代表者会議を行い、13日開幕となっている。1つ変更点があり、4月20日の会場が神戸学院大学に決定した。また、21日は天理大学の予定だったが、大阪大谷大学に変更になった。

報告事項3 西日本大会準備委員会の準備状況について

3月16日に第1回準備委員会が立ち上がり、各チームに参加の書類等を配信する準備をしている。大会の日程については、6月2日から9日までの1週間。女子の試合は、6月3日から6月9日で前半は中央体育館、6日から大阪府立体育館にて男女合同で開催される。

報告事項4 法人化に伴う定款以外の諸規定の整備について

資料の通り、各部において来年度1年間かけて整理を進めることとし、各部にて検討することになった。

報告事項5 日学理事長会の報告について 資料6-1、2

3月23日に日学理事長会が開催された。1は昨年のインカレの総括、2は日学としての2024年度の事業計画の報告、3は李伯杯に関して、本年は5月に日本で開催され、日本チームには立命館大学の山本選手が選出、4は、全国新人戦について、競技会は7月8日～14日で関西からの出場枠は4校、5はWBS男子の8月の大会の紹介、6はインカレについて、11月30日から12月8日を予定、そのほかは資料のとおりであると報告された。また登録数の減少傾向についての対応で意見交換が持たれ、日学としては、5年程度をかけて検討していくことが報告された。

III. 協議事項

登録数減少を防ぐために手続きの工夫が必要との意見があり、足立学生委員長からは大学でバスケットボールを続けることを選択肢としてもらうためにも、リーグ戦について高校を会場として行うなどして、身近に大学バスケットを感じられる場が必要なのではないかという意見が出された。高校生を巻き込んだイベントを開催することで大学バスケットを広めることができるのではないのかという意見も出された。

IV. その他

次回理事会 5月13日(月)19時～オンラインにて実施。

野老会長より、閉会を宣し、荒木理事長より閉会の挨拶があり、理事会を終了した。

(以上)